

鞠智城跡



鞠智城跡のある米原台地を南側より望む

熊本県教育庁文化課

鞠智城跡調査事務所

〔現場事務所〕〒861-04 熊本県鹿本郡菊鹿町大字米原字長者原

☎ 0968-48-3178

鞠智城の名称

鞠智城は平安時代には菊池城とも書かれている。菊池はこの時代に久久知(くくち)と読まれた。城は当時「き」と発音されていたので鞠智城は正式には「くくちのき」である。しかし、今日、一般的には「きくちじょう」と呼ばれている。

鞠智城の位置付け

鞠智城は熊本県内で、唯一の古代山城である。
大宰府の管轄下にあった六城(大野城・基肄城・金田城など)のひとつで、数多い熊本県下の文化遺産の中でも全国一の数を誇る装飾古墳と共に、熊本県の重要な文化財である。

鞠智城の築城時期と築城者

鞠智城の築城時期についての記録は無い。しかし『日本書紀』天智天皇四年(665年)秋八月の項に、百済の王族出身で祖国を失い日本に亡命してきた達率(官位名)憶礼福留(おくらいふくりゅう)と四比福夫(しひふくふ)の指導によって、筑紫国の大野城と基肄城の二城が築かれたとの記録がある。したがって、これらの二城とともに33年後になって修理する必要があった鞠智城も、同じような時期に築かれたと思われる。

これらの事により、鞠智城の防衛プラン造りには憶礼福留らの渡来人が深く関わっていたものと思われる。

鞠智城跡の調査と整備

- ① 鞠智城跡は、7世紀後半に大和朝廷が築城した日本で数少ない古代山城で、全国有数の重要な遺跡である。県では、国民共有の財産である鞠智城跡の保存・活用を図るため、関係市町(菊鹿町・菊池市)の協力を得ながら、地域づくりの核となるような歴史公園化を目指し調査と整備を行っていく。
- ② 城域は、内城地区(真の城域)と外縁地区(周縁部の城域)を合わせた120haからなっており、内城地区の47haについて保存と整備を図る。

鞠智城跡整備事業の進展状況

- ① 遺構が集中する内城地区を、平成6年度から9年度にかけて年次計画で公有化する。
- ② 6年度は、発掘調査、保存整備基本計画を策定した。
- ③ 7年度は、発掘調査、基本設計、造成工事、モニュメント設置等を行った。
- ④ 平成8年度は、20号建物(校倉造りの米倉)の復原工事に着手する。

1. 鞠智城跡の概要

鞠智城跡は、熊本県北部に広がる^{きくち}菊池平野の北端部に位置している。

県内で唯一の古代山城である鞠智城は、正史『^{しよくにほんき}続日本紀』の^{もんむ}文武天皇2年(698年)5月の頃に最初の記録があり、『^{さんだいじつろく}三代実録』の^{がんぎょう}元慶3年(879年)3月の項まで、城名の記載がある。

古代山城は、大化の改新(645年)を皮切りに、朝鮮半島における^{はくすきのえ}白村江の戦いでの敗戦(663年)、大津京遷都(667年)と、日本の古代史上で最も激動の時期といわれる7世紀代に大和政権によって九州や瀬戸内海沿岸、大和地方に築かれた国防上の重要拠点である。

このように鞠智城は重要な遺跡でありながら、永らくその存在が不明のままであったが、昭和に入り、ようやくその位置が確定された。昭和34年12月8日付けで遺跡の一部が「伝鞠智城跡」として県の史跡に指定され、その後、県教育委員会の調査を経て昭和51年8月24日付けで「伝鞠智城跡」から「鞠智城跡」に変更された。

^{かもと}鹿本郡^{きっか}菊鹿町^{よなばる}の米原台地を中心区域とする鞠智城跡は、米原集落や周辺に広がる農地や谷、崖線などを取り込み、さらには、菊池市の一部を含む広大な範囲を城域とし、昭和42年から始まった本格調査により、ようやくその内容が明らかにされつつある。平成7年度までの17次にわたる調査の中で、古代山城では初めての八角形建物跡(平成3年度の第13次調査)を検出するなど、学界でも注目を集めている。

〔 位置 〕

① 鞠智城跡は^{きくち}菊鹿町の南端部と^{きくち}菊池市の西端部をまたぐ^{よなばる}米原台地に築かれている。地形的には、うてな台地の基部にあたる所で、北東方向の8km先に^{やほだけ}八方ヶ岳(標高1052m)が遠望される。

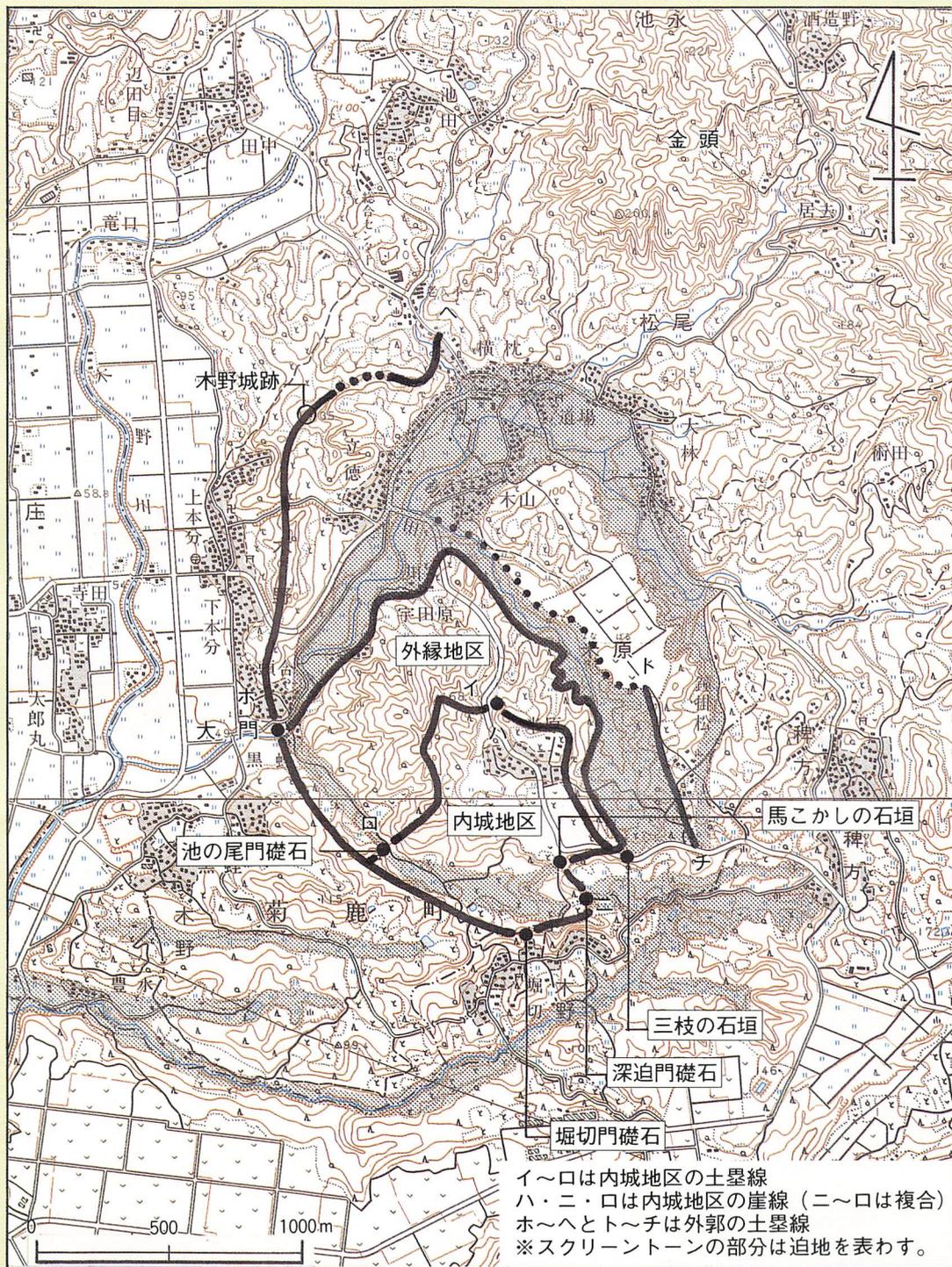
② ^{はざま}菊池川に合流する^{きのの}迫間川と木野川の間^のにうてな台地が広がっている。ちなみに、両河川の合流地点は鞠智城跡から南西方向へ5.5kmのところである。

③ 鞠智城跡と菊池川の河口とは28.5kmの距離がある。加えて大宰府からの直線

距離は80km近くに及ぶ。古代山城
としては、例外的にかなり内陸部
へ入り込んでいる。



鞠智城跡 位置図



鞠智城跡城域図

(面積) 内城… 55 ha 外縁地区… 65ha

2. 鞠智城の歴史及び調査の変遷

ア. 歴史

西暦 645年	大化元年	・大化の改新。
649年	大化5年	・蘇我日向を筑紫大宰師に任ず。
663年	天智2年	・白村江の戦い。
664年	天智3年	・筑紫などに防人と烽を配置。水城を築く。
665年	天智4年	・筑紫に大野城、基肄城を築く。長門に長門城を築く。
667年	天智6年	・大和に高安城、讃岐に屋島城、対馬に金田城を築く。
698年	文武2年	* 『続日本紀』「大宰府をして大野・基肄・鞠智の三城を繕ひ治めしむ」
699年	文武3年	・三野城、稻積城を修繕。
719年	養老3年	・茨城城、常城を停廢。
720年	養老4年	・隼人の反乱。
742年	天平14年	・大宰府の廢止。
745年	天平17年	・大宰府の再置。
858年	天安2年	* 『文徳実録』「菊池城院の兵庫の鼓自ら鳴る」「又鳴る」(2月) 「肥後国菊池城院の兵庫の鼓自ら鳴る」(6月) 「菊池城の不動倉十一宇火く」(6月)
875年	貞観17年	* 『三代実録』「カラスの群れが菊池郡倉舎の茸草をかみ抜く」
879年	元慶3年	* 『三代実録』「肥後国菊池城院の兵庫の戸自ら鳴る」
その後、米原長者伝説等で語られる。		

(*: 国史における鞠智城関連記事)

イ. 調査の変遷

西暦	年号	発掘調査	その他
1937	昭和12	_____	・故坂本経堯氏は米原一帯の地形や遺構を踏査し「鞠智城跡に擬される米原遺跡に就いて」を発表。
1938	昭和13	_____	・故松尾條規氏の鞠智城跡踏査。標柱を建て、保護顕彰に努める。
1953	昭和28	_____	・九州文化総合研究所が「鞠智城跡の調査保護計画」を県に陳情。
1956	昭和31	_____	・菊池古文化調査団が遺構調査。 ・長者山の礎石列の実測。
1959	昭和34	_____	・長者山礎石群及び深迫門礎石を県の史跡「伝鞠智城跡」に指定。
1967	昭和42	・第1・2・3次調査(県教育委員会)	_____
1968	昭和43	・米原台地の農業構造改善事業(開田)および長者山の山林開墾に伴う緊急調査。	_____
1969	昭和44	・第4次調査(県教育委員会) ・宮野礎石と長者山礎石群の掘り出し。長者山の測量。	_____
1976	昭和51	_____	・県指定名称を「鞠智城跡」と改称。
1979	昭和54	・第5次調査(菊鹿町教育委員会)町道(稗方～立德線)拡幅工事に伴う事前調査。 ・軒丸瓦片が出土。	_____

1980	昭和55	<ul style="list-style-type: none"> ・第6・7次調査（県教育委員会） ・文化庁国庫補助事業。 ・第6次では上原地区の発掘。 ・第7次では宮野礎石の全面露出。 	_____
1981	昭和56	_____	・宮野礎石を県史跡に追加指定。
1982	昭和57	_____	・米原台地の地形図(1/1000)を作成。
1986	昭和61	・第8・9次調査（県教育委員会）	
1987	昭和62	<ul style="list-style-type: none"> ・文化庁国庫補助事業。 ・第8次調査では航空撮影による米原地区の地形図作成作業。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・第9次調査では長者山礎石群調査。北側段落ち区画より多量の炭化米と布目瓦が出土。 	
1988	昭和63	<ul style="list-style-type: none"> ・第10次調査（県教育委員会） ・文化庁国庫補助事業。 ・宮野礎石周辺及び少監どん西側地域の調査。 ・19棟の建物跡を検出。 	_____
1989	平成元	<ul style="list-style-type: none"> ・第11次調査（県教育委員会） ・文化庁国庫補助事業。 ・宮野地区の集中調査。建物跡等確認。 	・県知事より教育委員会に、県を代表する遺跡の調査を進めるよう指示があり、これに対し鞠智城跡を選定。
1990	平成2	<ul style="list-style-type: none"> ・第12次調査（県教育委員会） ・文化庁国庫補助事業。 ・県の単独事業による重要遺跡確認調査も加わって、調査面積が大幅に増大。 ・長者山東側裾部一帯（宮野礎石建物跡を含む）の調査。 	_____
1991	平成3	<ul style="list-style-type: none"> ・第13次調査（県教育委員会） ・文化庁国庫補助事業と県の単独事業による重要遺跡確認調査を継続。 ・町道西側一帯の下原地区（長者原地区）の調査。 ・13年ぶりに軒丸瓦が出土。 ・16棟の建物跡を検出。 ・八角形建物跡2棟を検出。 	_____
1992	平成4	<ul style="list-style-type: none"> ・第14次調査（県教育委員会） ・城跡の範囲を確定するため、土塁線の調査。 ・町道沿いの下原地区と上原地区を調査。下原地区から、鞠智城の終末期にあたる礎石建物跡を確認。 	_____
1993	平成5	<ul style="list-style-type: none"> ・第15次調査（県教育委員会） ・町道から東側の上原地区を調査。鞠智城時代の遺構はほとんど検出されず。 ・中世遺構が出土。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県総合計画において、歴史公園化を目指した鞠智城跡の調査、整備がうたわれる。 ・保存整備の基本構想策定。
1994	平成6	<ul style="list-style-type: none"> ・第16次調査（県教育委員会） ・深迫門礎石周辺を調査。 ・登城道や版築によって築かれた土塁を検出。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保存整備のための「鞠智城跡保存整備検討委員会」発足。 ・鞠智城跡保存整備基本計画策定。 ・「鞠智城跡整備促進期成会」発足。 ・上原地区を施策開田し、代替地にあてる。
1995	平成7	<ul style="list-style-type: none"> ・第17次調査（県教育委員会） ・長者原地区の造成工事予定地を調査。 ・新たに2棟の建物跡を検出。(56号、57号) ・部分調査にとどまっていた50号と55号の建物跡を全掘。 	・整備事業に着手。

3. 遺構の概要

(1) 門礎石

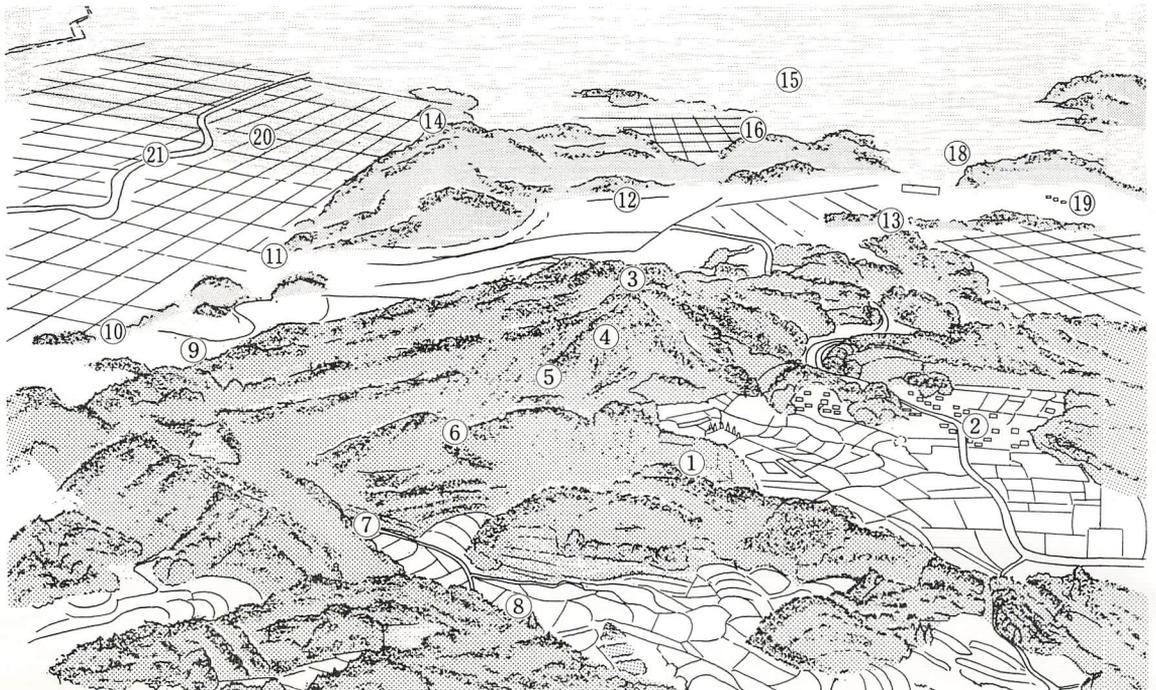
いけ お 池ノ尾門礎石	・城跡の西南の位置。水路の中に小振りの門礎石（ほぞ穴2つ）がある。
ほり きり 堀切門礎石	・城跡の南端中央部から城内に通じる重要な通路の一つと考えられ、巨大な門礎石がある。（ほぞ穴2つ。先端部は割られて、木野神社へ運び込まれている）
ふか さこ 深迫門礎石	・鞠智城の全体から見れば、東南の位置。 ・「長者どん的的」と呼ばれる門礎石（ほぞ穴1つ）が谷頭に、傾斜の状態である。

(2) 石垣

うま 馬こかしの石垣	・池ノ尾・堀切・深迫門礎石から城の中心部、通じるやせ馬のような通路。 ・東壁に石垣が積まれている。
みつえだ 三枝の石垣	・米原 ^{かねかけまつ} と鐘掛松 ^{いっすんえのき} 及び一寸榎方面とを結ぶやせ馬のような通路。 ・南壁に石垣が積まれている。

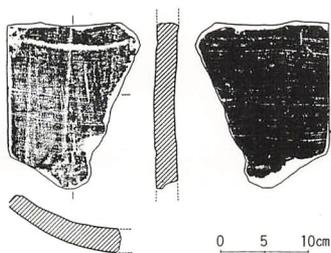
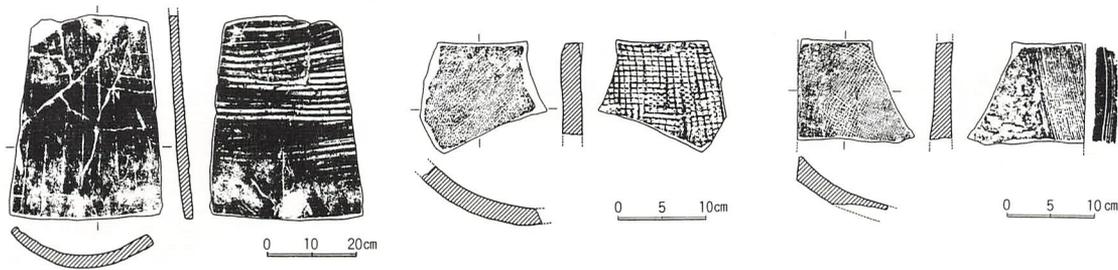
(3) 建物跡

礎石建物跡及び 掘立柱建物跡	・これまでに鞠智城跡から、数多くの建物跡が確認されている。 ・米原台地を南北に縦断する町道西側の長者原地区（長者山も含む）で53棟、町道東側の上原地区から6棟、合計59棟（掘立柱建物41棟、礎石建物18棟）を数えるが、今後、その数はさらに増えるものと予測される。（平成8年5月現在）
八角形建物跡	・鞠智城跡からは日本の古代山城では初めての八角形建物跡が検出されている。（他に都城の例として、7世紀中頃に造営された前期難波宮跡に2棟の例があるのみ） ・韓国の二聖（イーソン）山城でも確認されており、両国の文化交流を考える上でも貴重な遺構である。

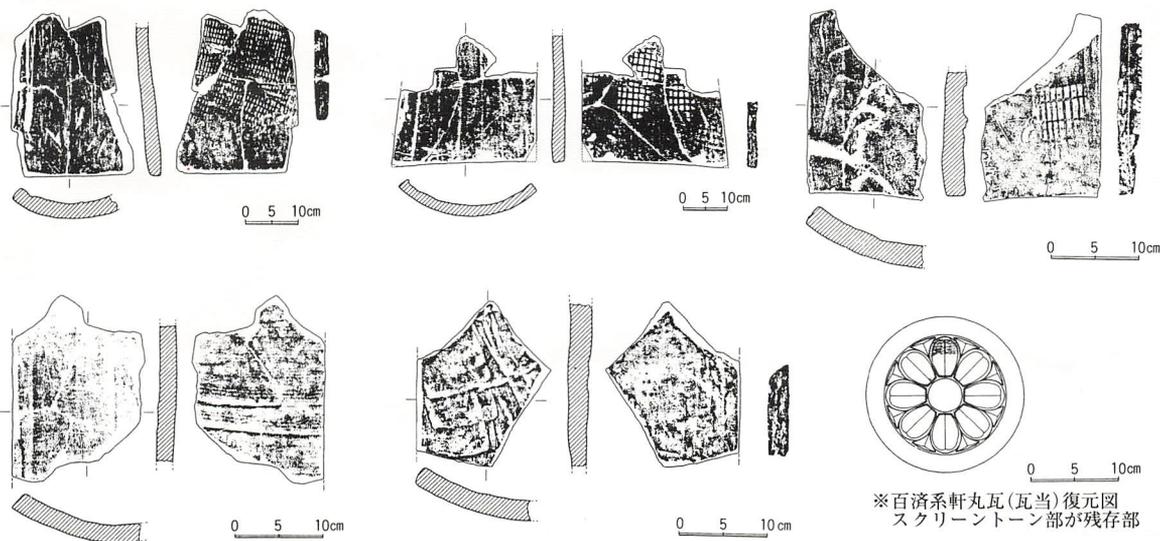


- ① 長者山(字・長者原)
- ② 米原
- ③ 佐官ドン
- ④ 涼みヶ御所
- ⑤ 灰塚
- ⑥ 長者山(大字・木野)
- ⑨ 池の尾門礎
- ⑧ 屏風岩ライン
- ⑨ 大門
- ⑩ 下本分(頭合)
- ⑪ 上本分
- ⑫ 立徳
- ⑬ 木山
- ⑭ 腰掛松
- ⑮ 下永野
- ⑯ 木野城(中世)
- ⑰ 合瀬川
- ⑱ 横枕
- ⑲ 道場
- ⑳ 鹿本平野(条里制)
- ㉑ 木野川

鞠智城跡とその周辺地形



第10~12次調査出土の布目瓦
(熊本県文化財調査報告第116集『鞠智城跡』より抜粋)



※百済系軒丸瓦(瓦当)復元図
スクリーン・トーン部が残存部

第13次調査出土の布目瓦・軒丸瓦 (熊本県文化財調査報告第124集『鞠智城跡』より抜粋)

〔瓦の分類〕

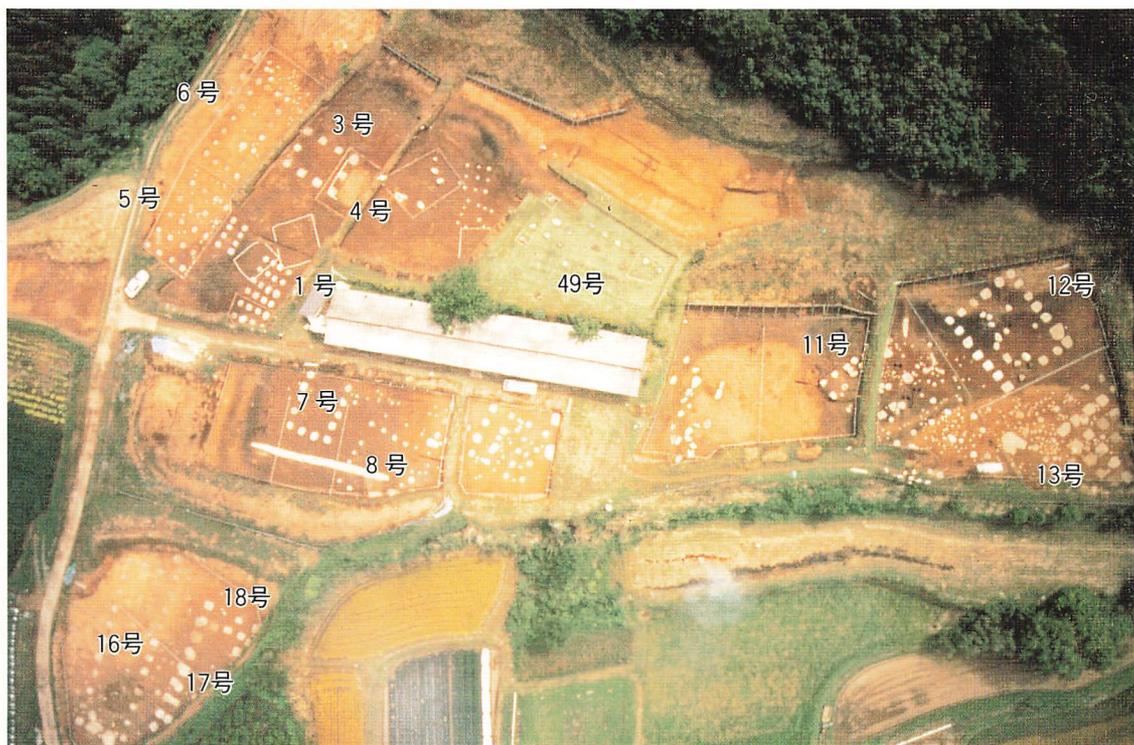
布目瓦については、調整方法によって、第13次調査から下記の様に分類している。

分類	調整方法	細分類	形状
I 類	格子叩き目	I a	大型の方形
		I b	中型の方形
		I c	小型の方形
		I d	大型の短冊形
		I e	中型の短冊形
		I f	小型の短冊形

II 類	条 痕	II a	横方向で、深く明確な条痕
		II b	縦方向で、深く明確な条痕
		II c	浅い条痕で、ナデにより単位不明のもの
		II d	浅い条痕で単位がわかり、幅が狭く、間隔の広いもの
		II e	浅い条痕で単位がわかり、幅が広く、間隔の狭いもの
		II f	深い条痕で単位がわかり、幅と間隔が広いもの
III 類	縄 目	—	—
IV 類	調整により叩き目が消去されている	IV a	滑らかな器面
		IV b	帯状の圧痕が付く



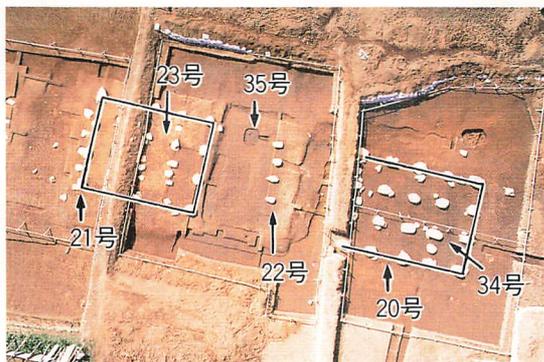
米原台地を東側から望む
 (手前より米原台地 → 菊池平野 → 金峰山)



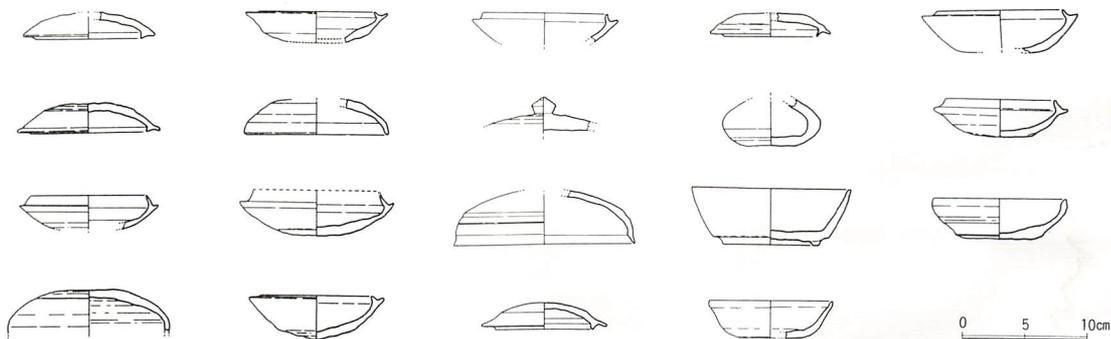
第10～12次調査検出遺構
 (長者山の東側一帯)



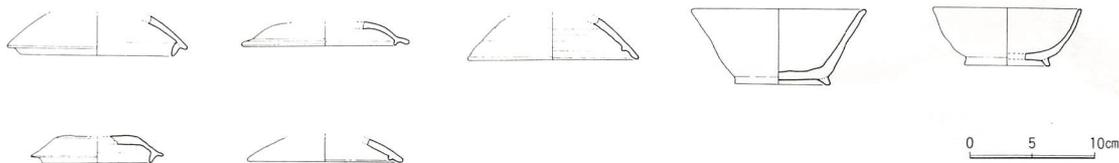
宮野礎石建物跡 (49号)
(鞠智城跡で最大の建物)



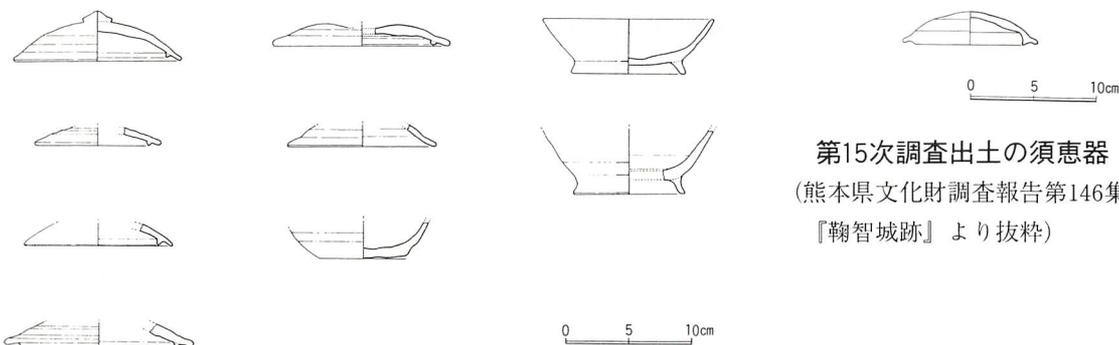
重なり合う礎石建物跡 (20~21号)
*中央部は、掘立柱建物 (35号) → 礎石建物 (23号) → 礎石建物 (22号) の順に建て替えられている。



第10~12次調査出土の須恵器 (熊本県文化財調査報告第116集『鞠智城跡』より抜粋)



第13次調査出土の須恵器 (熊本県文化財調査報告第124集『鞠智城跡』より抜粋)



第15次調査出土の須恵器
(熊本県文化財調査報告第146集『鞠智城跡』より抜粋)

第14次調査出土の須恵器
(熊本県文化財調査報告第130集『鞠智城跡』より抜粋)



鞠智城跡を西側上空より望む



第13次調査検出遺構
(町道より西側の長者原一带)



八角形建物跡 (32・33号)
(柱が立っている堀形は再建建物の33号)

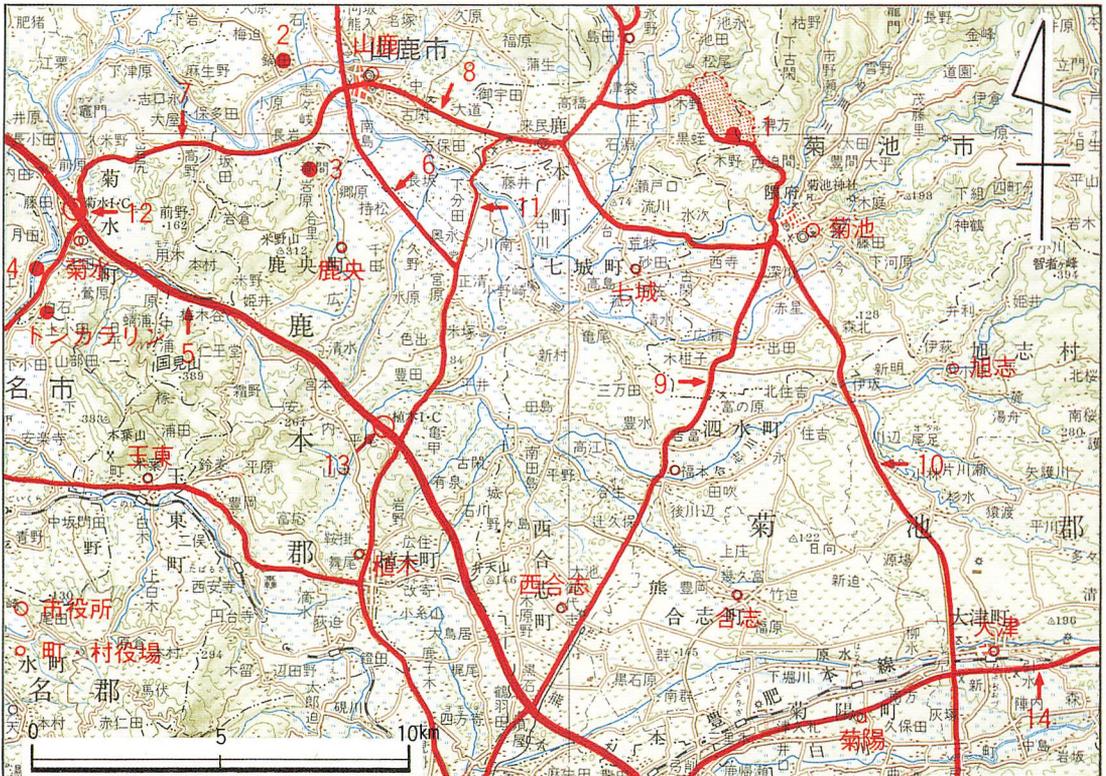


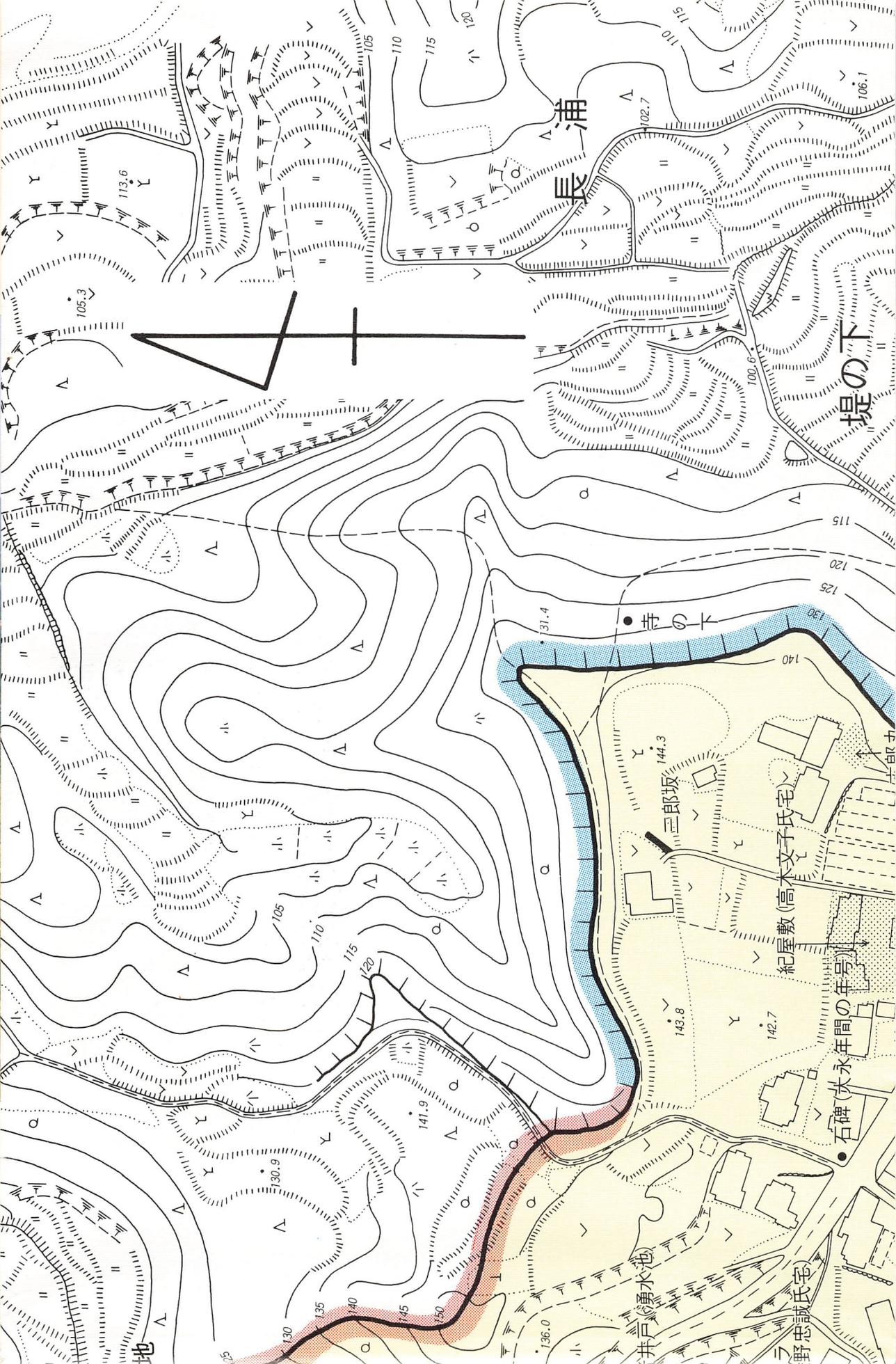
深迫門礎検出の版築土塁
(厚さ5~10cmの粘土を叩き締めながら積み上げたもの)

鞠智城跡への案内図

地図番号	内 容		
1	鞠智城跡	8	国道325号線
2	肥後古代の森 (山鹿地区)	9	国道387号線
3	肥後古代の森 (鹿央地区)	10	国道325号線
4	肥後古代の森 (菊水地区)	11	県道198号線
5	九州縦貫自動車道	12	菊水インター (九縦自動車道)
6	国道3号線	13	植木インター (九縦自動車道)
7	県道玉名・山鹿線	14	国道57号 (菊陽バイパス)

地 点	距離	使用時間	使用道路
熊本市街地 (起点・市役所)	30km	60分	国道3号⇒県道198号⇒国道325号⇒ 県道9号⇒県道196号⇒町道
九州縦貫自動車道 (起点・植木インター)	10km	20分	高速道⇒国道3号⇒県道198号⇒ 国道325号⇒県道9号⇒県道196号⇒町道
九州縦貫自動車道 (起点・菊水インター)	20km	45分	県道18号⇒国道325号⇒県道9号⇒ 県道196号⇒町道
熊本空港	20km	40分	県道36号⇒国道325号⇒ 県道18号バイパス⇒町道





長浦

堤の下



三郎坂

紀屋敷(高木文子氏宅)

石碑(伏永年間の年号)

野忠誠氏宅

井戸(湧水池)

地

105.3

113.6

105

110

115

120

110

106.1

102.7

100.6

115

120

125

130

140

31.4

144.3

143.8

142.7

141.9

130.9

130

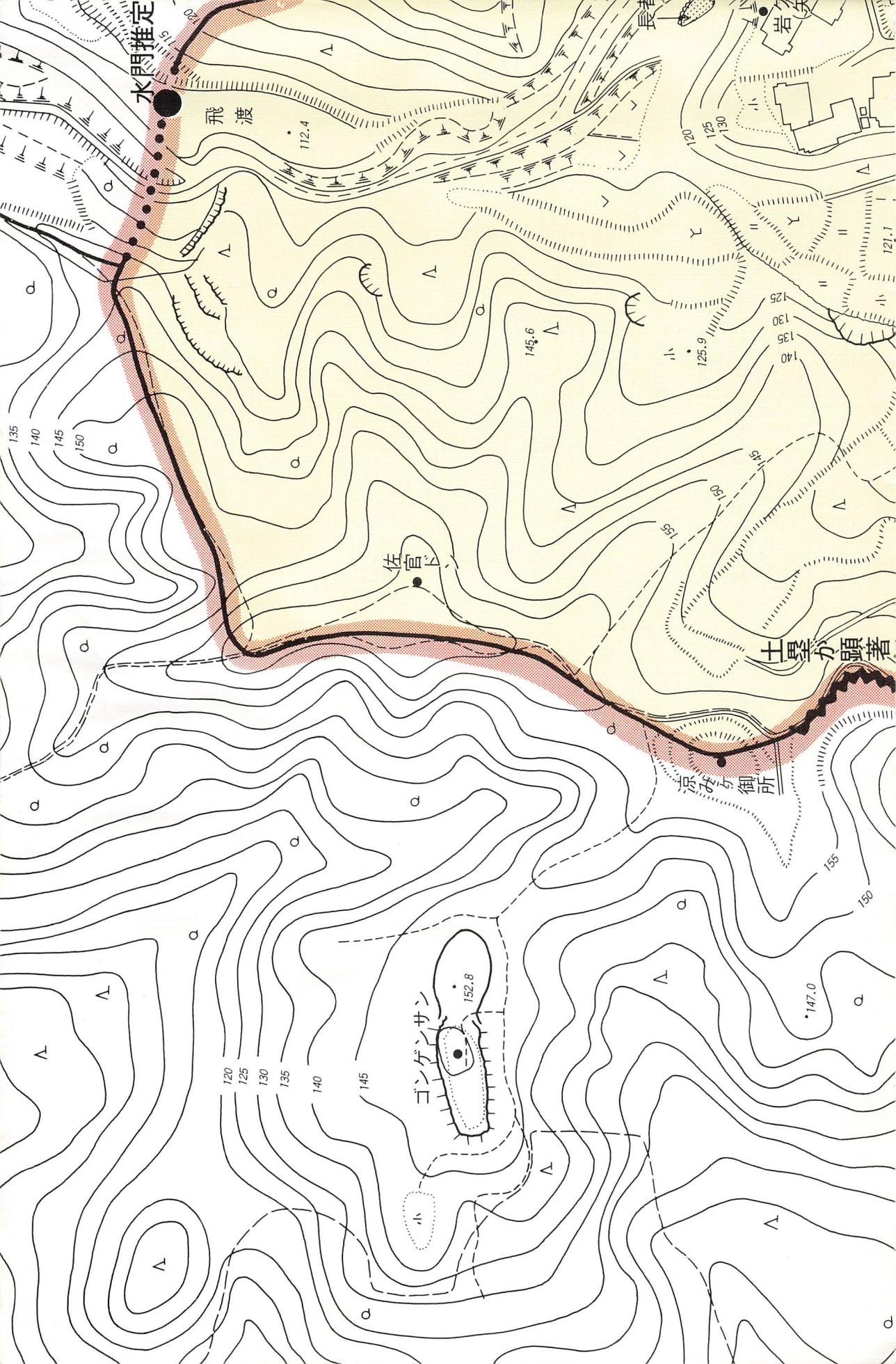
135

140

145

150

136.0



水門推定

飛渡

佐官

涼み身御所

ゴンゲンサン

土塁が顕著

長

岩

小

112.4

145.6

125.9

152.8

147.0

120

125

130

135

140

145

120

125

130

125

130

135

140

145

150

150

155

150

155

150

155

150

155

150

155

150

155

150

155

150

155

150

155

150

155

150

155

150

155

121.1

125

130

135

140

145

150

155

150

155

150

155

150

155

150

155

150

155

150

155

150

155

150

155

150

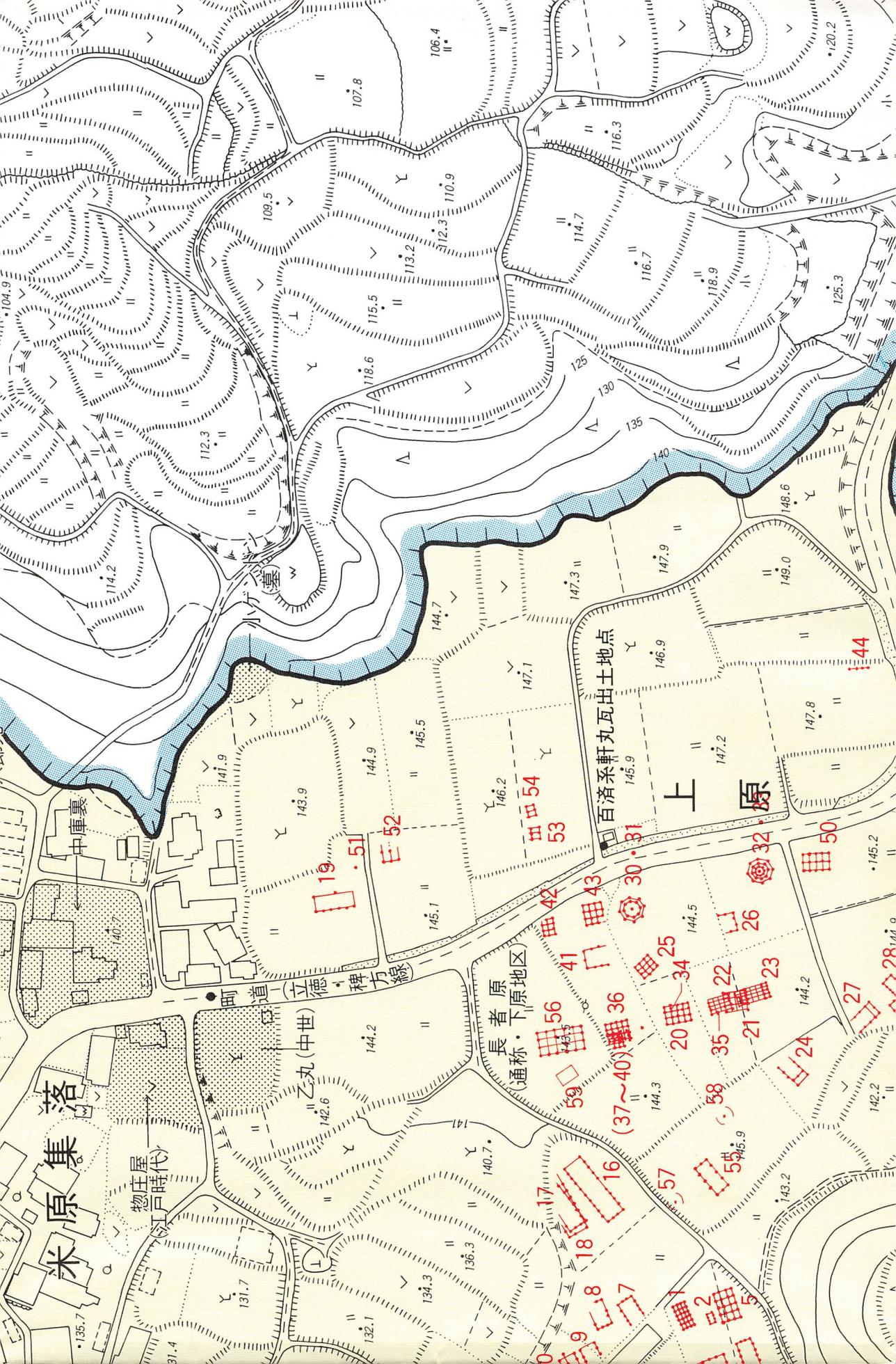
155

150

155

150

155



米原集落

物庄屋
江戸時代

長者原地区
(通称・下原地区)

百済系軒丸瓦出土地点

町道(立德) 稗方線

乙丸(中世)

上原

135.7

31.4

131.7

132.1

134.3

140.7

143.5

144.3

145.9

144.2

144.0

144.2

145.1

146.2

145.9

144.5

147.2

147.8

145.2

143.9

144.9

145.5

147.1

147.3

147.9

149.0

148.6

125.3

144.7

147.3

135

140

130

125

118.9

118.6

115.5

113.2

114.7

116.7

118.9

125.3

20.2

106.4

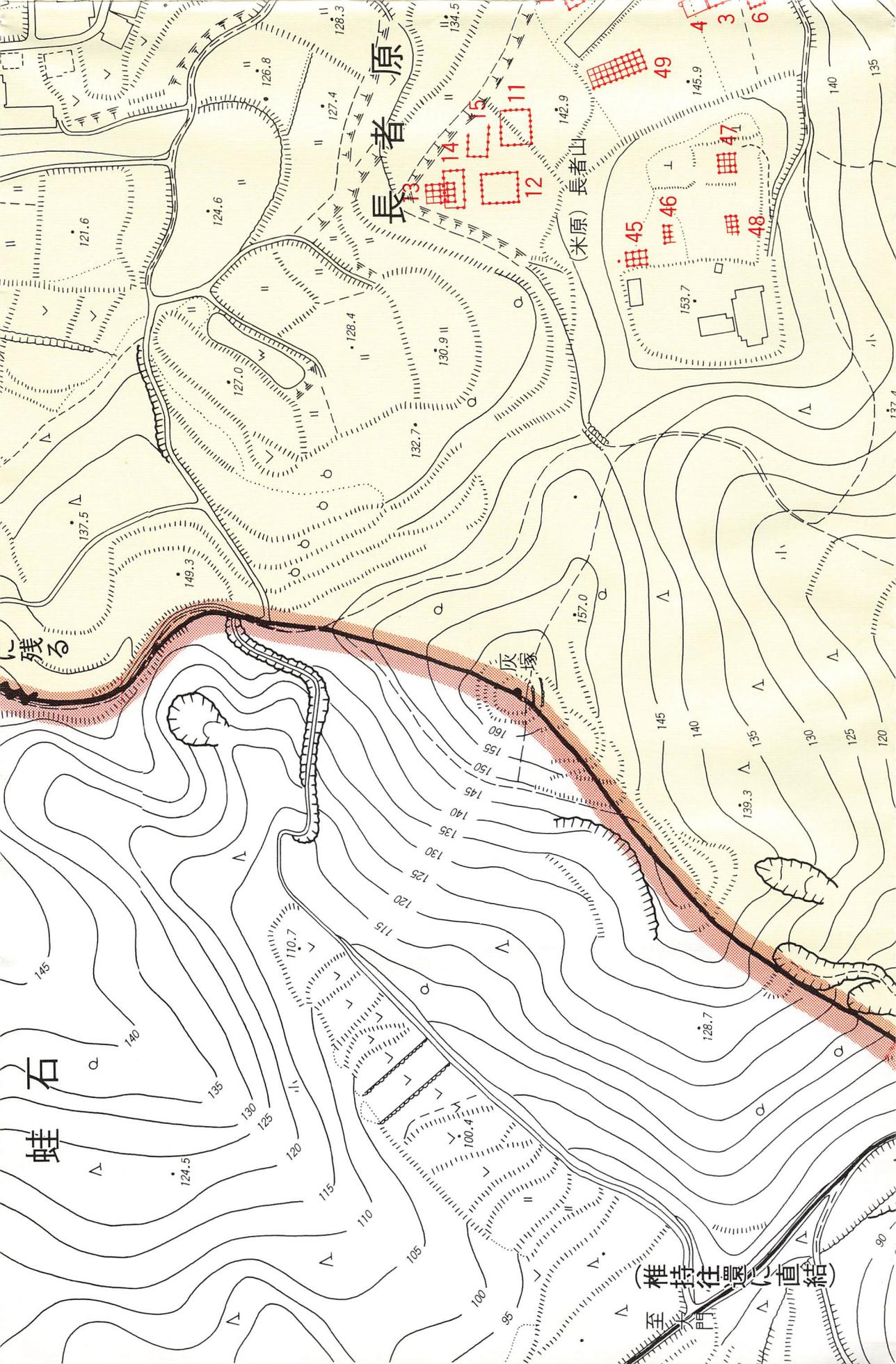
107.8

109.5

112.3

114.2

104.9



長者原

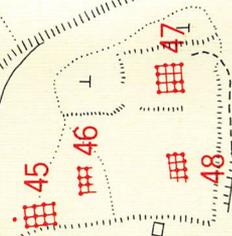
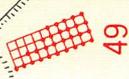
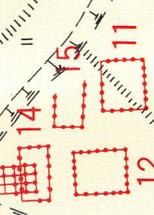
長者山 (米原)

灰塚

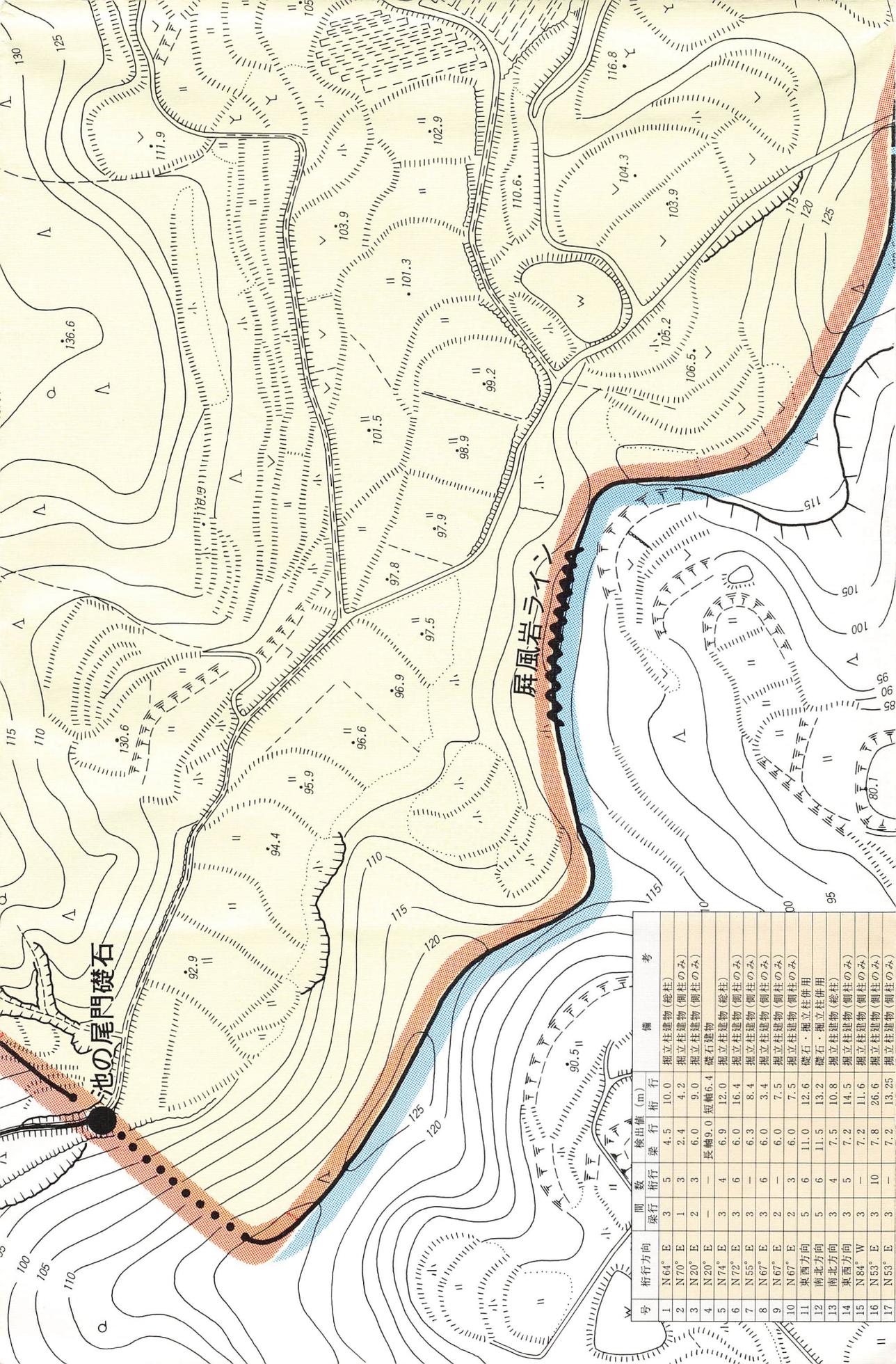
石蛙

椎持往還(直結)

至米門



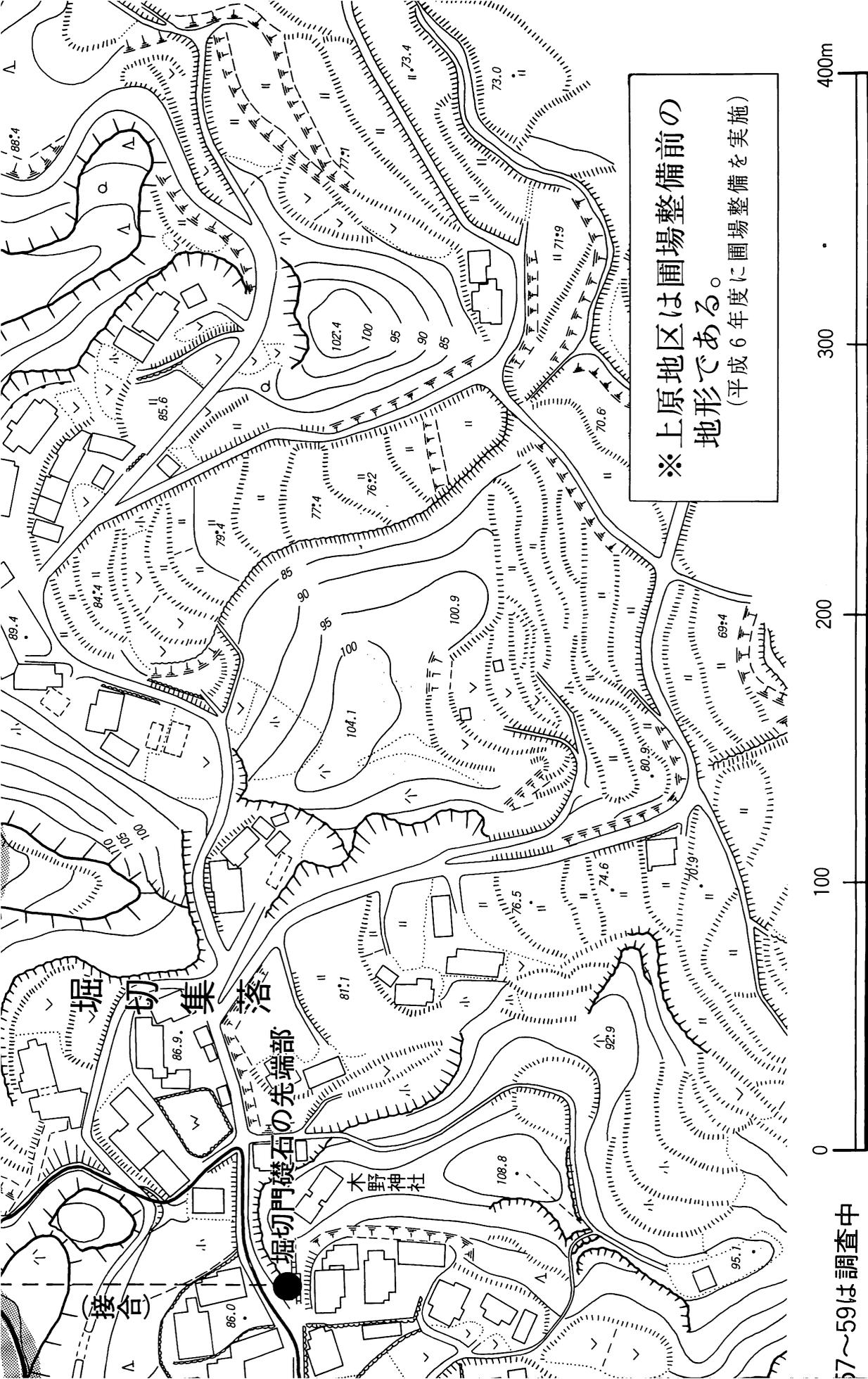
に残る



池の尾門礎石

屏風岩ライン

号	桁行方向	間数			検出値 (m)			備考
		梁行	桁行	間	梁行	桁行	間	
1	N64° E	3	5	4.5	10.0		獨立柱建物(総柱)	
2	N70° E	1	3	2.4	4.2		獨立柱建物(御柱のみ)	
3	N20° E	2	3	6.0	9.0		獨立柱建物(御柱のみ)	
4	N20° E	-	-	長軸9.0	短軸6.4		礎石建物	
5	N74° E	3	4	6.9	12.0		獨立柱建物(総柱)	
6	N72° E	3	6	6.0	16.4		獨立柱建物(御柱のみ)	
7	N55° E	3	-	6.3	8.4		獨立柱建物(御柱のみ)	
8	N67° E	3	6	6.0	3.4		獨立柱建物(御柱のみ)	
9	N67° E	2	-	6.0	7.5		獨立柱建物(御柱のみ)	
10	N67° E	2	3	6.0	7.5		獨立柱建物(御柱のみ)	
11	東西方向	5	6	11.0	12.6		礎石・獨立柱併用	
12	南北方向	5	6	11.5	13.2		礎石・獨立柱併用	
13	南北方向	3	4	7.5	10.8		獨立柱建物(総柱)	
14	東西北方向	3	5	7.2	14.5		獨立柱建物(御柱のみ)	
15	N84° W	3	-	7.2	11.6		獨立柱建物(御柱のみ)	
16	N53° E	3	10	7.8	26.6		獨立柱建物(御柱のみ)	
17	N53° E	3	-	7.2	13.25		獨立柱建物(御柱のみ)	



※上原地区は圃場整備前の
地形である。
(平成6年度に圃場整備を実施)

0 100 200 300 400m

57~59は調査中

堀切集落

堀切門礎石の先端部

木野神社

(接合)

88.4

89.4

100

86.9

86.0

85.6

79.4

85

104.1

81.1

86.0

77.4

90

100

81.1

86.0

102.4

95

90

100.9

81.1

86.0

73.4

73.0

77.4

76.2

85

100.9

81.1

86.0

71.9

70.6

70.6

80.6

76.5

74.6

70.9

92.9

86.0

70.6

80.6

74.6

70.9

92.9

86.0

69.4

80.6

74.6

70.9

92.9

86.0

69.4

80.6

74.6

70.9

92.9

86.0

95.1

86.0

鞠智城跡

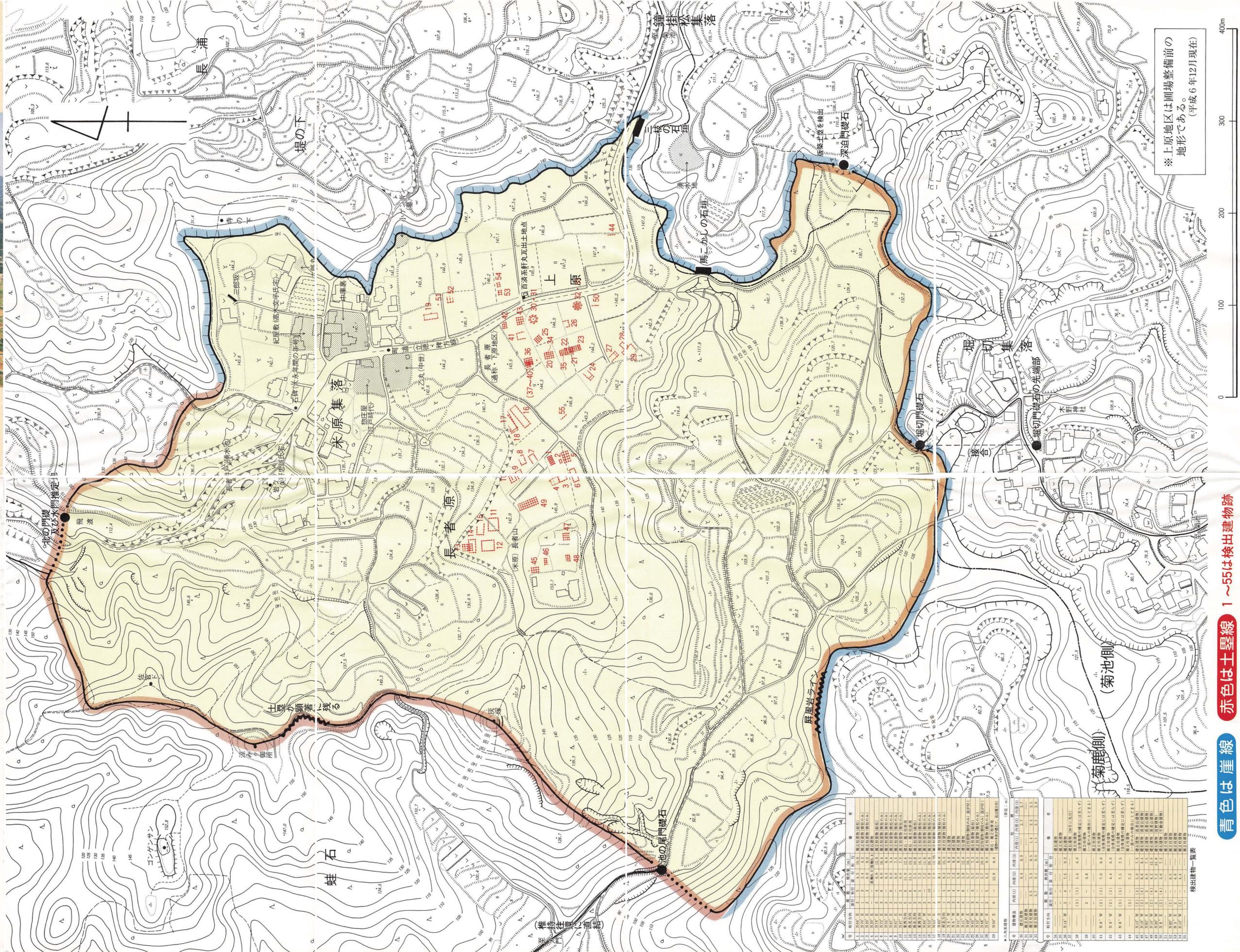
〔熊本県鹿本郡鹿町米原〕



鞠智城の所在する米原台を南側より望む

熊本県教育庁文化課 鞠智城跡調査事務所

〔現場事務所〕〒861-04 熊本県鹿本郡鹿町大字米原長者原
☎ 0968-48-3178



※上原地区は圃場整備前の地形である。
(平成6年12月現在)

鞠智城の名称

鞠智城は平安時代には菊池城とも書かれている。菊池はこの時代に久久知(くくち)と読まれた。城は当時「き」と発音されていたので鞠智城は正式には「くくちのき」である。しかし、今日、一般的には「きくちじょう」と呼ばれている。

鞠智城の位置付け

鞠智城は熊本県内で、唯一の古代山城である。大宰府の管轄下にあった六城のひとつで、数多い熊本県下の文化遺産の中でも全国一の数を誇る装飾古墳等と共に、熊本県の重要な文化財である。

鞠智城の築城時期と築城者

鞠智城の築城時期についての記録は無い。しかし『日本書紀』天智天皇四年(665年)秋八月の条に、百済の王族出身で祖国を失い日本に亡命してきた達率(官位名)憶礼福留(おくらいふくりゅう)と四比福夫(しひふくふ)の指導によって、筑紫国の大野城と基肄城の二城が築かれたとの記述がある。したがって、これらの二城とともに33年後になって修治する必要を生じた鞠智城も、同じような時期に築かれたと思われる。これらの事により、鞠智城の防衛プラン造りには憶礼福留らの渡来人が深く関わっていた可能性が高い。

近年の調査の成果

- 八角形建物跡** 日本の古代山城で最初に発見された建物跡で、似たものが韓国の二聖山城などにもあり、両国の文化交流を考えるうえで貴重な資料になっている。
- 門礎石の調査** 「城は門からしか入れないから城である」との格言が示すとおり、城域の確定には門の調査が重要である。今日、鞠智城跡には3ヶ所に門礎石が残っている。この内、堀切門は正門とみられ、菊池からの道がここに延びている。池の尾門は西門で、維持往還(大宰府への山越え道)につながっている。深迫門は東南門にあたる。これのみ谷の中腹にあり、現在の道とは直結しない。
- 平成6年度の第16次調査** 深迫門礎石周辺を調査した。門の周辺から版築土塁が検出された。防衛のため谷部を狭める造成で、土塁の間の凹道が登城道とみられる。「長者どんの石」と呼ばれる門礎石は片開きの門であったと考えられる。

赤色は土塁線 1～55は検出建物跡

青色は崖線

検出建物一覧表

番号	名称	形状	面積(㎡)	内径(㎡)	外径(㎡)	高さ(㎝)	備考
1	八角形建物跡	八角形	5.4	8.9	2.7	3.7	検出建物跡
2	土塁	線	2.1	3.5	1.4	3.5	検出建物跡
3	土塁	線	3.7	6.1	2.4	3.8	検出建物跡
4	土塁	線	3.8	6.1	2.4	3.8	検出建物跡
5	土塁	線	3.8	6.1	2.4	3.8	検出建物跡
6	土塁	線	3.8	6.1	2.4	3.8	検出建物跡
7	土塁	線	3.8	6.1	2.4	3.8	検出建物跡
8	土塁	線	3.8	6.1	2.4	3.8	検出建物跡
9	土塁	線	3.8	6.1	2.4	3.8	検出建物跡
10	土塁	線	3.8	6.1	2.4	3.8	検出建物跡
11	土塁	線	3.8	6.1	2.4	3.8	検出建物跡
12	土塁	線	3.8	6.1	2.4	3.8	検出建物跡
13	土塁	線	3.8	6.1	2.4	3.8	検出建物跡
14	土塁	線	3.8	6.1	2.4	3.8	検出建物跡
15	土塁	線	3.8	6.1	2.4	3.8	検出建物跡
16	土塁	線	3.8	6.1	2.4	3.8	検出建物跡
17	土塁	線	3.8	6.1	2.4	3.8	検出建物跡
18	土塁	線	3.8	6.1	2.4	3.8	検出建物跡
19	土塁	線	3.8	6.1	2.4	3.8	検出建物跡
20	土塁	線	3.8	6.1	2.4	3.8	検出建物跡
21	土塁	線	3.8	6.1	2.4	3.8	検出建物跡
22	土塁	線	3.8	6.1	2.4	3.8	検出建物跡
23	土塁	線	3.8	6.1	2.4	3.8	検出建物跡
24	土塁	線	3.8	6.1	2.4	3.8	検出建物跡
25	土塁	線	3.8	6.1	2.4	3.8	検出建物跡
26	土塁	線	3.8	6.1	2.4	3.8	検出建物跡
27	土塁	線	3.8	6.1	2.4	3.8	検出建物跡
28	土塁	線	3.8	6.1	2.4	3.8	検出建物跡
29	土塁	線	3.8	6.1	2.4	3.8	検出建物跡
30	土塁	線	3.8	6.1	2.4	3.8	検出建物跡
31	土塁	線	3.8	6.1	2.4	3.8	検出建物跡
32	土塁	線	3.8	6.1	2.4	3.8	検出建物跡
33	土塁	線	3.8	6.1	2.4	3.8	検出建物跡
34	土塁	線	3.8	6.1	2.4	3.8	検出建物跡
35	土塁	線	3.8	6.1	2.4	3.8	検出建物跡
36	土塁	線	3.8	6.1	2.4	3.8	検出建物跡
37	土塁	線	3.8	6.1	2.4	3.8	検出建物跡
38	土塁	線	3.8	6.1	2.4	3.8	検出建物跡
39	土塁	線	3.8	6.1	2.4	3.8	検出建物跡
40	土塁	線	3.8	6.1	2.4	3.8	検出建物跡
41	土塁	線	3.8	6.1	2.4	3.8	検出建物跡
42	土塁	線	3.8	6.1	2.4	3.8	検出建物跡
43	土塁	線	3.8	6.1	2.4	3.8	検出建物跡
44	土塁	線	3.8	6.1	2.4	3.8	検出建物跡
45	土塁	線	3.8	6.1	2.4	3.8	検出建物跡
46	土塁	線	3.8	6.1	2.4	3.8	検出建物跡
47	土塁	線	3.8	6.1	2.4	3.8	検出建物跡
48	土塁	線	3.8	6.1	2.4	3.8	検出建物跡
49	土塁	線	3.8	6.1	2.4	3.8	検出建物跡
50	土塁	線	3.8	6.1	2.4	3.8	検出建物跡
51	土塁	線	3.8	6.1	2.4	3.8	検出建物跡
52	土塁	線	3.8	6.1	2.4	3.8	検出建物跡
53	土塁	線	3.8	6.1	2.4	3.8	検出建物跡
54	土塁	線	3.8	6.1	2.4	3.8	検出建物跡
55	土塁	線	3.8	6.1	2.4	3.8	検出建物跡

1. 鞠智城跡の概要

鞠智城跡は、熊本県北部に広がる菊池平野の北端部に位置している。県内で唯一の古代山城である鞠智城は、正史『続日本紀』の文武天皇2年(698年)5月の条に初見されるのをはじめ、『三代実録』元慶3年(879年)3月の条まで、城名の記載を見る。

古代山城は、大化の改新(645年)を皮切りに、朝鮮半島における白村江の戦い(663年)、大津京遷都(667年)と、日本の古代史上で最も激動の時期といわれる7世紀代に大和政権によって九州や瀬戸内海沿岸、大和などに築かれた国防上の重要拠点である。

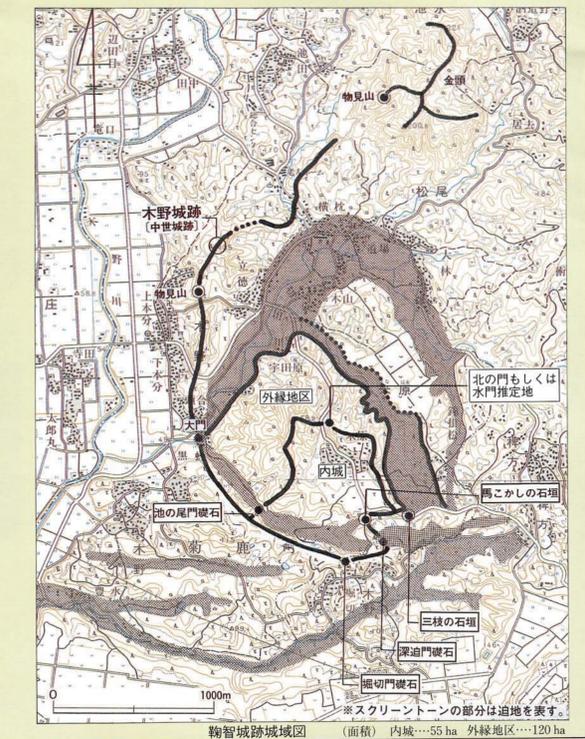
このように鞠智城は重要な遺跡でありながら、長らくその存在が不明のままであったが、昭和に入り、ようやくその位置が確定された。昭和34年12月8日付けで遺跡の一部が「伝鞠智城跡」として県の史跡に指定され、その後、県教育委員会の調査を経て昭和51年8月24日付けで「伝鞠智城跡」から「鞠智城跡」に変更された。

鞠鹿町の米原台地を中心区域とする鞠智城跡は、米原集落や周辺に広がる農地や谷、崖線など、菊池市の一部を含む広大な範囲を城域とし、昭和42年から始まった本格調査により、ようやくその内容が明らかにされつつある。平成6年度までの16次にわたる調査の中で、古代山城では初めての八角形建物跡(平成3年度第13次調査)を検出するなど、その特異性が注目されている。

【位置】

- ① 鞠智城跡は鞠鹿町の南端部と菊池市の西端部をまたぐ米原台地に築かれている。地形的には、うてな台地の基部にあたる所で、北東方向の8km先に八方ヶ岳(標高1052m)が遠望される。
- ② 菊池川に合流する迫間川と木野川の間うてな台地が広がっている。ちなみに、両河川の合流地点は鞠智城から南西方向へ5.5kmのところである。
- ③ 鞠智城跡と菊池川の河口とは28.5kmの距離がある。加えて大宰府からの直線

距離は80km近くに及ぶ。古代山城としては、例外的にかなり内陸部へ入り込んでいる。



2. 鞠智城の歴史及び調査の変遷

ア. 歴史

西暦 645年	大化元年	・大化の改新。
649年	大化5年	・蘇我日向を筑紫大宰帥に任ず。
663年	天智2年	・白村江の戦い。
664年	天智3年	・筑紫などに防人と烽を配置。水城を築く。
665年	天智4年	・筑紫に大野城、基肄城を築く。長門に長門城を築く。
667年	天智6年	・大和に高安城、讃岐に屋島城、対馬に金田城を築く。
698年	文武2年	＊『続日本紀』「大宰府をして大野・基肄・鞠智の三城を繕ひめしむ」
699年	文武3年	・三野城、植積城を修繕。
719年	養老3年	・茨城城、常城を修繕。
720年	養老4年	・隼人の反乱。
742年	天平14年	・大宰府の廃止。
745年	天平17年	・大宰府の再置。
858年	天安2年	＊『文徳実録』「菊池城院の兵庫の鼓自ら鳴る」「又鳴る」(2月)「肥後国菊池城院の兵庫の鼓自ら鳴る」(6月)「菊池城の不動倉十一字火く」(6月)
875年	貞観17年	＊『三代実録』「カラスの群れが菊池郡舎舎の葦草をかみ抜く」
879年	元慶3年	＊『三代実録』「肥後国菊池城院の兵庫の戸自ら鳴る」

(*: 国史における鞠智城関連記事)

イ. 調査の変遷

西暦	年号	発掘調査	その他
1937	昭和12		・故坂本経亮氏、米原一帯の地形や遺構を踏査し「鞠智城跡に擬される米原遺跡に就いて」を発表。
1938	昭和13		・故松尾條規氏、鞠智城跡踏査。標柱を建て、保護顕彰に努める。
1953	昭和28		・九州文化総合研究所が「鞠智城跡の調査保護計画」を原に陳情。
1956	昭和31		・菊池古文化調査団が遺構調査。
1959	昭和34		・長者山礎石群及び深迫門礎石を県の史跡「伝鞠智城跡」に指定。
1967	昭和42	・第1・2・3次調査(県教育委員会)	
1968	昭和43	・米原台地の農業構造改善事業(開田)および長者山の山林開墾に伴う緊急調査。	
1969	昭和44	・第4次調査(県教育委員会)	・宮野礎石の露出、長者原礎石等の全面露出。長者山の測量。
1976	昭和51		・県指定名称を「鞠智城跡」と改称。
1979	昭和54	・第5次調査(鞠鹿町教育委員会)	

1980	昭和55	・町道(神方～立徳線)拡幅工事に伴う事前調査。 ・軒丸瓦片が出土。 ・第6・7次調査(県教育委員会) ・文化庁国庫補助事業。 ・第6次では上原地区の発掘。 ・第7次では宮野礎石群の全面露出。	
1981	昭和56		・宮野礎石群を県史跡に追加指定。
1982	昭和57		・米原台地の地形図(1/1000)を作成。
1986	昭和61	・第8・9次調査(県教育委員会)	
1987	昭和62	・文化庁国庫補助事業。 ・第8次調査では航空撮影による米原地区の地形図作成作業。 ・第9次調査では長者山礎石群調査。北側段落区画より多量の炭化米と布目瓦が出土。	
1988	昭和63	・第10次調査(県教育委員会) ・文化庁国庫補助事業。 ・宮野礎石群周辺及び少監とん西側地域の調査。 ・19種の建物跡を検出。	
1989	平成元	・第11次調査(県教育委員会) ・文化庁国庫補助事業。 ・宮野地区の集中調査。建物跡等確認。	・県知事より教育委員会に、県を代表する遺跡の調査を進めるよう指示があり、これに対し鞠智城跡を選定。
1990	平成2	・第12次調査(県教育委員会) ・文化庁国庫補助事業。 ・県の単独事業による重要遺跡確認調査も加わって、調査面積が大幅に増大。 ・長者山東側裾部一帯(宮野礎石建物跡を含む)の調査。	
1991	平成3	・第13次調査(県教育委員会) ・継続して文化庁国庫補助事業と県の単独事業による重要遺跡確認調査。 ・町道西側一帯下原地区の調査。 ・13年ぶりに軒丸瓦が出土。 ・16種の建物跡を検出。 ・八角形建物跡2棟を検出。	
1992	平成4	・第14次調査(県教育委員会) ・城跡の範囲を確定するため、土器線の調査。 ・町道沿いの下原地区と上原地区を調査。下原地区から、鞠智城の終末期にあたる礎石建物跡などを確認。	
1993	平成5	・第15次調査(県教育委員会) ・町道から東側の上原地区を調査。鞠智城時代の遺構はほとんど検出されず。 ・中世遺構が出土。	・県総合計画において、歴史公園化を目指した「鞠智城跡」の調査、整備がうたわれる。 ・保存整備の基本構想策定。
1994	平成6	・第16次調査(県教育委員会) ・深迫門礎石周辺を調査。 ・礎石地築跡、登城道や版築によって築かれた土塁を検出。	・保存整備のための「鞠智城跡保存整備基本計画策定委員会」発足。 ・保存整備の基本計画策定。 ・「鞠智城期成会」発足。

3. 遺構の概要

(1) 門礎石

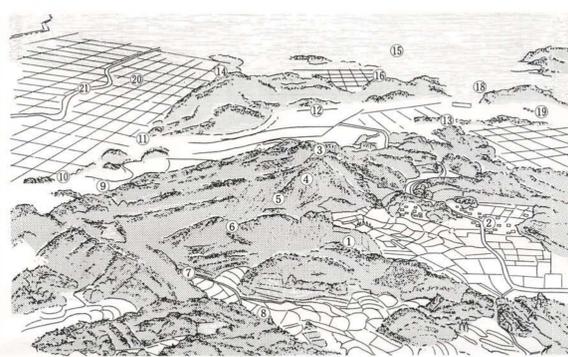
池ノ尾門礎石	・城跡の西南の位置。水路の中に小型の門礎石がある。
堀切門礎石	・城跡の南端中央部から城内に通じる重要な通路の一つと考えられ、巨大な門礎石がある。
深迫門礎石	・鞠智城の全体から見れば、東南の位置。 ・「長者どんの的」と呼ばれる門礎石が谷頭付近の畑地にあり、傾斜の状態にある。

(2) 石垣

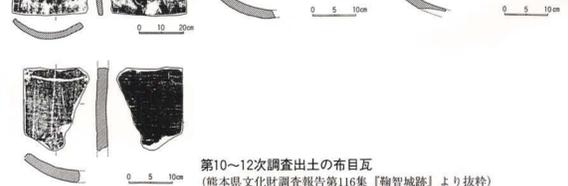
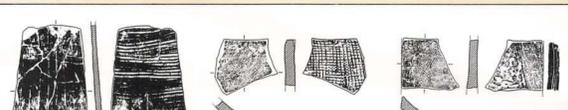
馬こかしの石垣	・池ノ尾・堀切・深迫門礎石から城の中心部に通じる馬の背のような通路。 ・東壁に石垣が積まれている。
三枝の石垣	・米原と鐘掛松及び一寸榎方面とを結ぶ野首の通路。 ・南壁に石垣が積まれている。

(3) 建物跡

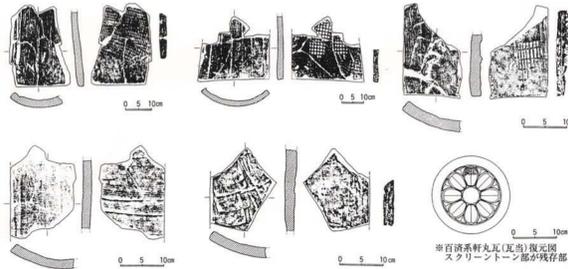
礎石建物跡及び独立柱建物跡	・これまでに鞠智城跡からは、数多くの建物跡が確認されている。 ・米原台地を南北に縦断する町道西側の長者原地区(長者山も含む)で49棟、町道東側の上原地区から6棟、合計55棟(独立柱建物37棟、礎石建物18棟)を数えるが、今後、その数はさらに増えるものと予測される。
八角形建物跡	・鞠智城跡からは日本の古代山城では初めての八角形建物跡が検出されている。(他に都城の例として、7世紀中頃に造営された前期難波宮跡に2棟の例があるのみ) ・韓国の二聖(イソン)山城でも確認されており、両国の文化交流を考える上でも貴重な遺構である。



- ① 長者山(宇・長者原)
- ② 米原
- ③ 佐賀ドン
- ④ 深みヶ所
- ⑤ 灰塚
- ⑥ 長者山(大字・木野)
- ⑦ 池の尾門礎
- ⑧ 屏風岩ライン
- ⑨ 大門
- ⑩ 下本分(頭台)
- ⑪ 上本分
- ⑫ 立徳
- ⑬ 木山
- ⑭ 腰掛松
- ⑮ 下永野
- ⑯ 木野城(中世)
- ⑰ 合瀬川
- ⑱ 横杖
- ⑲ 道場
- ⑳ 鹿本平野(桑里制)
- ㉑ 木野川



第10～12次調査出土の布目瓦 (熊本県文化財調査報告第116集「鞠智城跡」より抜粋)

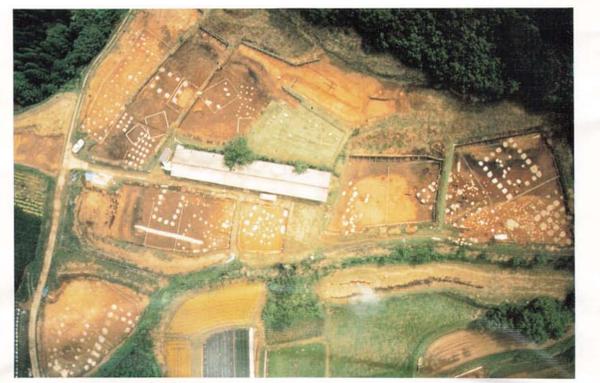


第13次調査出土の布目瓦・軒丸瓦 (熊本県文化財調査報告第124集「鞠智城跡」より抜粋)

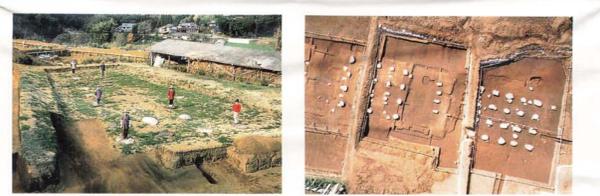
瓦(分類)	1. 1. 腰方型で、縁の厚み異なる
	1. 2. 腰方型で、縁の厚み異なる
	1. 3. 腰方型で、縁の厚み異なる
	1. 4. 腰方型で、縁の厚み異なる
	1. 5. 腰方型で、縁の厚み異なる
	1. 6. 腰方型で、縁の厚み異なる
	1. 7. 腰方型で、縁の厚み異なる
	1. 8. 腰方型で、縁の厚み異なる
	1. 9. 腰方型で、縁の厚み異なる
	1. 10. 腰方型で、縁の厚み異なる
	1. 11. 腰方型で、縁の厚み異なる
	1. 12. 腰方型で、縁の厚み異なる
	1. 13. 腰方型で、縁の厚み異なる
	1. 14. 腰方型で、縁の厚み異なる
	1. 15. 腰方型で、縁の厚み異なる
	1. 16. 腰方型で、縁の厚み異なる
	1. 17. 腰方型で、縁の厚み異なる
	1. 18. 腰方型で、縁の厚み異なる
	1. 19. 腰方型で、縁の厚み異なる
	1. 20. 腰方型で、縁の厚み異なる
	1. 21. 腰方型で、縁の厚み異なる
	1. 22. 腰方型で、縁の厚み異なる
	1. 23. 腰方型で、縁の厚み異なる
	1. 24. 腰方型で、縁の厚み異なる
	1. 25. 腰方型で、縁の厚み異なる
	1. 26. 腰方型で、縁の厚み異なる
	1. 27. 腰方型で、縁の厚み異なる
	1. 28. 腰方型で、縁の厚み異なる
	1. 29. 腰方型で、縁の厚み異なる
	1. 30. 腰方型で、縁の厚み異なる
	1. 31. 腰方型で、縁の厚み異なる
	1. 32. 腰方型で、縁の厚み異なる
	1. 33. 腰方型で、縁の厚み異なる
	1. 34. 腰方型で、縁の厚み異なる
	1. 35. 腰方型で、縁の厚み異なる
	1. 36. 腰方型で、縁の厚み異なる
	1. 37. 腰方型で、縁の厚み異なる
	1. 38. 腰方型で、縁の厚み異なる
	1. 39. 腰方型で、縁の厚み異なる
	1. 40. 腰方型で、縁の厚み異なる
	1. 41. 腰方型で、縁の厚み異なる
	1. 42. 腰方型で、縁の厚み異なる
	1. 43. 腰方型で、縁の厚み異なる
	1. 44. 腰方型で、縁の厚み異なる
	1. 45. 腰方型で、縁の厚み異なる
	1. 46. 腰方型で、縁の厚み異なる
	1. 47. 腰方型で、縁の厚み異なる
	1. 48. 腰方型で、縁の厚み異なる
	1. 49. 腰方型で、縁の厚み異なる
	1. 50. 腰方型で、縁の厚み異なる



米原台地を東側から望む (手前より米原台地→菊池平野→金峰山)

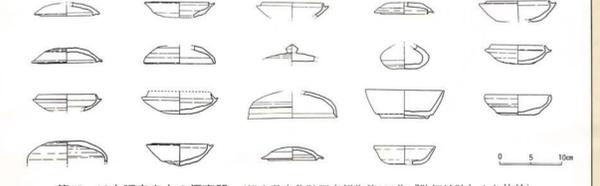


第10～12次調査検出遺構 (長者山の東側一帯)



宮野礎石建物跡(49号) (鞠智城最大の建物)

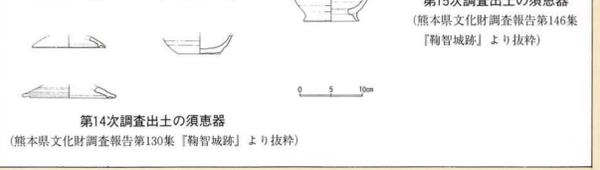
重なり合う礎石建物跡(20～21号) (中央部は、独立柱建物(36号)→礎石建物(23号)→礎石建物(22号)の順に建てられている。)



第10～12次調査出土の須恵器 (熊本県文化財調査報告第116集「鞠智城跡」より抜粋)



第13次調査出土の須恵器 (熊本県文化財調査報告第124集「鞠智城跡」より抜粋)



第14次調査出土の須恵器 (熊本県文化財調査報告第130集「鞠智城跡」より抜粋)



鞠智城跡を西側上空より望む



第13次調査検出遺構 (町道より西側の長者原一帯)



八角形建物跡(32・33号)

深迫門礎石検出の版築土塁



鞠智城への案内図

この電子書籍は、鞠智城跡 を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版は発掘調査報告等、他の書籍から引用してください。

鞠智城跡の発掘調査報告は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：鞠智城跡

発行：熊本県教育委員会

〒862-8609 熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号

電話： 096-383-1111

URL：<http://www.pref.kumamoto.jp/>

電子書籍制作日：西暦 2024 年 8 月 29 日